

令和7年度 第2回「プロジェクトマネジメント研修カリキュラム開発分科会」報告

- 1 日時 令和7年 7月22日(火) 15:00～17:00
- 2 場所 産業技術短期大学校 西館棟(西キャンパス) 特別教室5

3 分科会委員

(座長) 筒井 潔	アジアパシフィックコーポレーション(株)
丹羽 良和	日産自動車(株)
高橋 哲也	ポリテクセンター関東
土屋 春香	日本ディクス(株)
斉藤 光弘	神奈川県立産業技術総合研究所
加藤 勝彦	(株)キャリアサポート湘南
菅原 征江	(株)クボテック
神馬香代子	(株)アイ・ディー・エクス
旭 馨	神奈川大学
伊藤千珠代	オフィス マウミ
小山 宏	西部総合職業技術校
田村 守	横浜経理専門学校
人材育成支援センター(事務局)	
田中 暁	人材育成支援センター所長
酒井 博之	〃 職業訓練推進員
津久井二郎	〃 主査
植村 道忠	〃 人材育成コーディネータ

*分科会委員の出欠

出席者：筒井座長、丹羽委員、神馬委員、旭委員、小山委員、伊藤委員、加藤(勝)委員、高橋委員、菅原委員
(人材育成支援センター 津久井、酒井、植村)

4 内容

ア 開発コンセプトについて

① 狙い

- ・リスクマネジメントからレジリエンスマネジメントへ(レジリエンスの基礎知識を習得)
- ・プロジェクトの成否は、最後はプロジェクトマネージャー次第(リーダーの在り方を習得)
- ・プロジェクトのデザインにおける考え方の基礎を習得(陽と陰)

② 研修対象者

- ・プロジェクトの実施者、プロジェクトの組成、実行に関わる人
- ・研修、教育担当者、人事総務、管理職、経営者

③ 研修目標

- ・プロジェクトを企画、組成、実行しようとするときに、考え方を学ぶ

④ 講座のポイント

- ・時代の変化を感じることへの興味を促す
- ・AIだなんだといっても、ビジネスは人がやるものであるという事実への再認識を促す

イ プログラム構成（2日間）について

① <1日目>

I インTRODクシヨN

- ・ビジネスと経済理論のシンクロナイズ

II プロジェクトとは何か

- ・「コンセプト、プログラム、プロジェクト」の3点セット

III プロジェクトの要素について

- ・政治、戦略（魅力）、技術（モノづくりと事業）、人（プロジェクトリーダー）

② <2日目>

IV プロジェクトをマネジメントできる人になるために（参考2）

V レジリエンスについて：リスクマネジメントからレジリエンスマネジメントへ

VI ケーススタディ：エネルギーDXプロジェクト（参考1）

ケーススタディ：ロバート・ソロー「成長理論」コラム（参考4）

VII 失敗の本質：小型原子炉プロジェクト（参考3）

（参考1）「エネルギー産業のDXとはどういうことか」（技術評論社から出版予定の原稿の一部）

（参考2）「重職者心得」（多田哲也編著）

（参考3）「原子力ベンチャーのコンサル仕事の話」

（参考4）ロバート・ソロー「成長理論」コラム

ウ 意見交換

- ・政産官連携の「政」は背景として国家資本主義があるため
- ・プロジェクトのポイントは「資金」が重要ではないか
- ・その「資金」はプロジェクトを遣るインセンティブになる
- ・他の面でもインセンティブな魅せ方が重要
- ・日本のプロジェクトは課題解決型である
- ・「なぜプロジェクトを遣るのか」は、トップ（プロマネ）として腹をくくることある
- ・プロジェクトを遣る意義とは、人との繋がりや貢献度合いによる
- ・各委員の事例や話を聞いてみたい
- ・プロジェクトはシナリオを作ることから始まり、プロジェクトを想定し問題を考える
- ・自信のある人は自信過少である

エ 次回（第3回）について

（日時）令和7年8月26日（火）15:00～17:00

（会場）産業技術短期大学校 西キャンパス特別教室5

（内容）「研修プログラムの基本」の続き

開発コンセプトとプログラム構成を検討する

以上